

技術・家庭科学習指導案

日 時 平成22年 10月28日(木) 5校時

場 所 家庭科室

学 級 3年1組(男子18名 女子17名 計35名)

指導者 教諭 中塚 加奈子

1. 単元名 わたしたちの消費生活と環境 「2 商品の選択と購入」

2. 単元について

(1) 題材について

「わたしたちの消費生活と環境」は、指導要領における「B家族と家庭生活」の(4)の内容にあたり、「家庭生活における消費の重要性に気づかせ、販売方法の特徴や消費者保護に関する学習を通して、物資やサービスの適切な選択、購入および活用などができるようにするとともに、環境に配慮した消費生活ができること」をねらいとしている題材である。今回は特に商品の購入の場面を取り上げながら消費生活や環境に配慮した生活について学習を進めたいと考えている。

(2) 生徒について

3年1組の生徒は、普段は積極的な発言などは少ないが、授業での教師の話などに素直に耳を傾け、集中して学習する生徒が多い。また作業学習にも意欲的に取り組み、作品の完成を目指して積極的に作業をしている。今回の学習内容である消費生活や金銭の扱いに関することには興味は示すものの、身の回りの学用品等は保護者が買い与えることが多いため、あまり明確な目的意識を持って購入している生徒は少ない。また、情報として消費者被害の事例等は知っているものの、それが自分たちの生活と結びついているという実感はあまり持っていない。そのため、なるべく最新の情報を取り上げながら身近な生活の場面を押さえ、学習を進めていきたい。

(3) 指導にあたって

題材の導入では、家庭生活の中での経済活動や消費活動が社会と関わっていることに気づかせ、中学生でも用具やサービスを購入していることを確認させる。そして、購入をする際には表示やマークをはじめとして様々な情報源を活用して商品を購入することの必要性を学ばせ、具体的な購入方法や支払い方法について学ばせる。そして、昨今起こっている表示の偽装問題等に触れながら、それらの問題の背景とそれから消費者を守る法律や権利について学ばせ、商品購入に関わる諸問題(ごみ問題、省エネルギーなど)を取り上げながらよりよい消費生活を行うためには自らがどう行動すればよいのかをまとめさせていきたい。

「わたしたちの消費生活」では、中学生が扱うことができる範囲は限られているため、授業ではなるべく具体的な事例や、中学生が行動できるような場面を取り上げながら、消費生活をより適切に行うことの大切さに気づかせていきたい。

3. 単元の目標

- (1) 自分の家庭生活や消費のあり方について振り返り、身近な販売方法の特徴と問題点に関心を持つとする。 【関心・意欲・態度】
- (2) 消費生活の問題点を見つけ、収集・整理した情報を活用して消費生活をより良くする方法について考え、工夫する。 【工夫・創造】
- (3) 具体的な物資やサービスの事例について情報を収集・整理し、適切な選択、購入および活用ができる。 【技能・表現】
- (4) ・中学生に関わりの深い販売方法の利点と問題点について理解する。
 ・物資の選択・購入・活用・廃棄について基礎的な知識を身につけている。 【知識・理解】

4. 指導計画（私たちの消費生活と環境：7時間扱い 本時 2 / 7時間）

	時数	学習内容	評価規準			
			生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
	1	・導入	自分の家庭生活や消費のあり方について振り返り、学習について関心を持つとうとしている。	消費生活をよりよくする方法について考え、工夫している。		
消費生活について考えよう	1	・選択と情報の活用 商品を購入するポイントを考えよう	商品の選択方法を考えようとしている。		商品の適切な選択・購入のための情報を収集・整理することができる。	
	1	・賢く情報を選択し、購入しよう（本時）		情報を活用して、消費生活をよりよくする方法について考えることができる。	生活に必要な商品の適切な選択・購入ができる。	
	1	・いろいろな販売方法と支払い方法	商品の支払い方法を考えようとしている。			販売方法の利点や問題点、支払い方法についてどんな方法があるかを理解している。
消費者としての自覚を持つよう	1	・契約と問題	身近に起こっているトラブルについて関心を持っている。			身近な消費生活にかかわるトラブルの解決方法が分かる。
	2	・トラブルの解決	消費者を守るための制度や法律について知ろうとしている。			消費者の基本的な権利と消費者保護について理解している。

5. 本時の指導について

(1) 目標

- ・物品の選択・購入に必要な様々な課題について考えようとする。

【関心・意欲・態度】

- ・様々な情報をもとに、自分の生活や好みに合った商品の選択ができる。

【技能】

(2) 具体の評価規準

観点	A 十分満足できる	C努力を要する生徒への手立て
関心 意欲 態度	多くの情報の中から、正しい商品選択ができるようにするためにはどのような知識が必要になるのか具体的に考え、意見を発表することができる。	商品情報を見ながら、それぞれの商品の長をとらえ、商品の違いについて考えて書き出すことができるように助言する。
技能	商品の情報について必要な情報とそうでない情報について明確な視点を持ち、情報の重要性について区別を付けながら商品の選択ができる。	班でまとめた商品の長を見比べながら、自分が商品の選択をするときに何を考えたいかは自分の意見が持てるよう助言する。

(3) 指導の構想

本時は、「わたしたちの消費生活」の2時間目に当たる。前時の授業では、経済が家庭生活の働きの中に大きな位置を占めることや、物資とサービス、商品の価値について学んでいる。ここで、具体的な商品を取り上げて選択と購入のあり方について考えさせ、自らの意志決定の過程を分からせる授業にしたいと考える。そのために、導入部分で前時で学習した食品の表示について触れ、食品のように試食をできないシャープペンシルを用いて、価格や重さ、品質などの異なる商品から、自分の生活や好みに合った商品を選択するための多様な情報を整理させる。班員と意見を出し合いながらそれぞれの商品の良さを考えさせたい。最終的には自分の生活や好みに合う商品を選択させる。その後、商品の購入の計画から反省までの流れを確認し、一般化させる。

(4) 展 開

段 階	学習活動 《学習形態》	教師の働きかけ	○指導上の留意点 ●評価の方法・観点
導 入 (10 分)	1.導入題材の提示	1.前時の授業で行った食品での 選択と表示の見方の学習につい て振り返る 2.食品の例を挙げながら、別の商 品を使って商品のひとつを選択 するために知りたい情報は何か を考えさせる	○ポテトチップス 4 種の袋を提示する (導入教材) ○食品例を提示した あと、他の商品を提 示しよりよい商品 の選択・購入するた めにはどうすれば いいかに気づかせ る。
	2.必要な情報の考察		
	3.学習課題の設定		
	商品の選択の情報を知り、選択理由を考えてみよう		
展 開 (35 分)	4.表示内容の確認 《個》	4.商品の違いについて、それぞれ の表示の違いを確かめさせる	○商品カード各班配 布 ○プリント配布
	5.商品情報を読み取り《班》	5.商品カードを見ながらどの商 品を選択したいか話し合わせる	●【 関心・意欲・態度 】 物品の選択・購入に 必要な様々な課題 について考えよう としている。
	6.商品の特徴についての話し 合い 《班》	6.商品表示やラベルなどの情報 から比較して欲しい商品を考え て発表させる	
7.情報の収集、選択の仕方の 判断 《個》	7.表示から気づいたことをまと め、各班での発表をし、それら を参考に、再度個人で自分が必 要とする商品の選択をし、発表 させる	●【 技能 】 商品から得た情報 を利用して明確な 理由のある判断が できたか	
終 末 (5 分)	8.商品を購入するときの条件 の確認	8.商品選択の際には、さまざまな 情報を収集して選択することの 大切さに気づかせる。	紙板書
	9.本時の振り返り	9.感想記入させる。	
	10. 次時の予告	10. 次時は販売方法と支払い方法 を学習することを予告する。	

